

平成20年4月の解説（府県天気予報）

【4月の天候状況】

上旬の前半は東・西日本で晴れの日が多くなりました。後半は北日本で晴れの日が多くなりましたが、東日本の太平洋側では低気圧の影響で大雨となりました。中旬は低気圧が本州の南岸沿いを通過することが多く、北日本を除き曇りや雨の日が多くなりました。下旬は東・西日本は高気圧におおわれ晴れる日が多くなりました。その他の地方では天気が周期的に変わりました。

月を通しての日照時間は、沖縄・奄美で少なくなりました。降水量は北日本の日本海側ではかなり少なく、東日本の太平洋側ではかなり多くなりました。月平均気温は北日本かなり高く、東日本と西日本では高くなりました。

【4月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が87%で例年（注）より3ポイント高く、明後日予報が84%で例年より4ポイント高くなりました。地方毎の適中率では、明日・明後日予報はともにほぼ全国的に例年より高く、北海道地方で10ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、全国的に例年より小さい地方が多く、関東・甲信、東海、近畿地方では0.5 から0.7 小さくなりました。全国平均は例年より0.4 小さい1.7 でした。また、最低気温の予報誤差は、四国と九州南部地方では例年より0.4 小さかった他は大体各地方とも例年並みで、全国平均は例年より0.1 小さい1.6 でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の天気予報から】

4月24日は関東地方の北を寒冷前線が、南岸を低気圧が通過して（図1）、東日本は全域で雨となりました。23日05時に発表した東京地方の24日（明日）の降水確率予報は0時～6時が40%、6時～12時が60%、12時～18時が70%、18時～24時が50%でした。しかし、実況は順に0%、40%、20%、70%となり、12時～18時の予報が50%過大となりました。23日17時発表の24

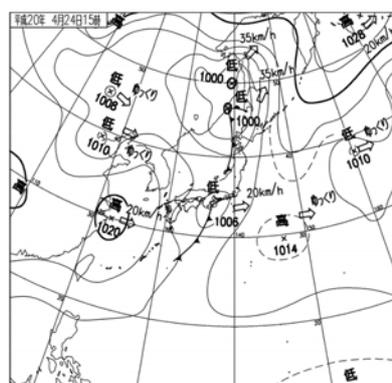


図1 平成20年4月24日15時の地上天気図

日 12 時～18 時の降水確率予報も 60%で 40%過大でした。

寒冷前線の接近などにともない、関東地方の上空約 1500 メートル付近で南西の風が吹くときは、関東平野は西にある関東山地の影響で雨の降りにくい傾向があります。24 日の関東地方上空約 1500 メートル付近では南南

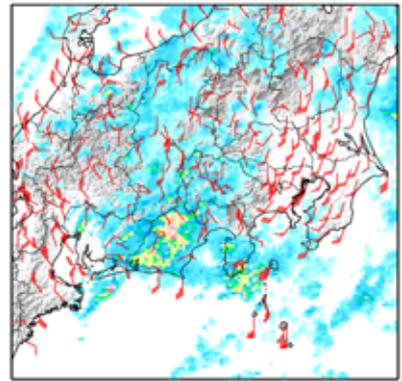


図2 平成 20 年 4 月 24 日 15 時のレーダーエコーとアメダスの地上風

西の風が予想され、地表付近でも南東の風により湿った空気が東京地方に運ばれるため、6 時～24 時にかけての降水確率を 50%以上と予報しました。しかし実際は、24 日昼過ぎから夕方にかけて関東地方上空約 1500 メートルの風が南南西から南西に変わり、東京地方は地上の風も南東にならず多摩西部の一部で雨を観測しただけでした（図 2）。

今回の事例は、風向の予想のわずかな違いが降水確率に大きく影響したと考えられます。

【6 月の天気予報の利用にあたって】

6 月は梅雨前線が本州付近に停滞して曇りや雨の日が多くなります。梅雨前線が停滞して活動が活発になると雨の日が続きしばしば大雨となります。時には激しい雷雨が発生することもあります。

2001 年には、梅雨前線が 6 月前半は時々本州付近まで北上しましたが長期間停滞することはなく、その活動はあまり活発ではありませんでした。6 月後半になると本州付近に停滞することが多くなり、活動も活発となったため、西日本各地でがけ崩れや

土砂崩れなど大雨による災害が多数発生しました。福岡では 19 日に 200mm を超える大雨が降りまし

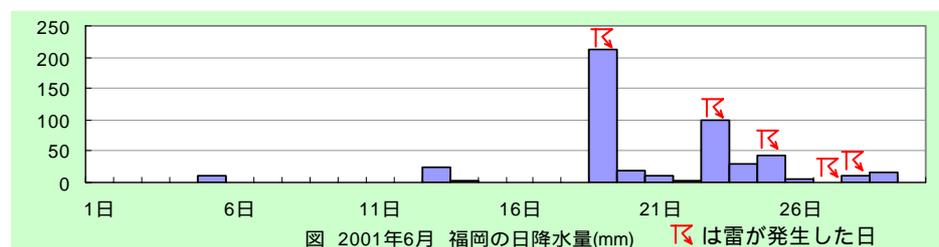


図 2001 年 6 月 福岡の日降水量(mm) 雷は雷が発生した日

た。その後も月末にかけて連日の雨となり、しばしば雷雨となりました。

雨が降り続けると土の中の水分が増えて、がけ崩れや土砂崩れが起こり易くなります。雨の日が続いているときには、特に大雨についての気象情報に注意して、警報・注意報などの防災気象情報を活用して災害に備えることをお勧めします。